

## これからのグローバル化を考える

「ヨーロッパの都市」というと皆様はどのようなイメージを思い浮かべますか。

今夏パリでオリンピック・パラリンピックが開催されたことから、フランス・パリの凱旋門に代表される歴史的建造物や石造りの建物の町並みに代表される統一感のある都市を思い浮かべる方もいるのではないのでしょうか。

今回は、ベルリン工科大学都市・地域計画学部教授のヤン・ポリーフカ氏に「ヨーロッパの都市」のイメージの特徴や発展した都市から導き出された戦略的特徴についてご紹介いただきました。そこにはこれからの日本の都市を考える上でのヒントがあるかもしれません。

### 「ヨーロッパの都市」のイメージ ～ダイナミックな時代における都市構造の 安定性と変化の要素～

ベルリン工科大学都市・地域計画学部都市計画・建築環境開発学 教授  
ヤン・ポリーフカ



「ヨーロッパの都市」という概念は、地理的にヨーロッパに在る都市を指すだけではありません。歴史的に発展し、空間的にコンパクトで、機能的に多様な利用が混在する都市モデルを表しています。「ヨーロッパの都市」のイメージは、自然環境、歴史、経済と社会の3つの要素によって大きく特徴づけられています。

まず、ヨーロッパの都市は自然環境に依存して発展してきました。世界の他の地域と同様に、河川や移動ルートに沿って都市が形成されました。アルプス山脈の南に位置する地中海地域の定住地は最も古く、南西アジアからの移住と関係しています。一方で、その他のヨーロッパの定住地は北部の海を越えたりユーラシア大陸を渡ってきた移住者により形成されました。こうした自発的な定住に加え、小規模にしか定住していなかった地域を植民地化し、利用するために都市が設立されました。都市や村は所有者や支配者が度々変わったものの、その機能はたいへい変わりませんでした。これらの都市は軍事拠点や川の渡り場、資源供給地、ユーラシア貿易路の商業拠点であり、その役割は今日まで続いています。

次に、ヨーロッパの都市はその歴史と、ヨーロッパ大陸における役割によって特徴づけられています。多国籍な構造を持つヨーロッパ

の都市は、歴史的に多くの移民や権力の変遷を経験し、多様な文化的背景が影響を与えてきました。これにより、都市構造には層のような多様性が生まれました。異なった建築様式や都市設計の概念が並存し、時には取り壊されて新しいものに置き換えられたり、複数の様式や技術が混ざり合ったりしてきました。都市全体の構造も同様に、道路網や公共空間、技術的インフラが統合され、複雑な都市システムを形成しています。

3つ目に、都市を特徴づけるのは、経済・行政システムと都市機能の概念です。ヨーロッパの都市は、地域経済の中心地としての役割や、ヨーロッパ全体の貿易・産業の要地、さらにグローバルな情報や資本の交換拠点として、そしてその時代の概念や宗教、統治言語、統治者や統治国によってその経済・行政システムが繰り返し変化してきました。

このように「ヨーロッパの都市」のイメージは、この自然環境、歴史、経済・社会の3つの要素の独自の組み合わせによって形成されています。

都市のイメージには瞬間的なものが存在しています。これは、現在の文脈において都市がどのように評価されているか、どの要素が重要視されているか、現在の都市の発展傾向が経済的および人口動態的に安定しているか、

地域、国家、または世界規模の競争において都市が強力な経済的または政治的役割を果たしているかどうか、によって大きく影響を受けます。

同時に都市の長期的なイメージもあります。これは、都市が持つ特別な歴史的価値や地理的な独自性など、時代を超えて重要視され続ける要素によって形成されるものです。

都市がその重要性を失うか、逆に獲得するかは、単発的な危機や経済力の変動、人口減少、または長期的な価値創出や立地の魅力の大きな変化によって左右されます。都市の経済力や価値創出は、直接的にはイメージの管理によって保証されるものではありませんが、都市のイメージを構成する要素には、都市の発展を積極的に計画し、ポジティブに影響を与えるための手段が含まれています。しかし、

これらの要素は往々にして影響力のある要因と対立します。というのも、都市政策はたいへい地域的またはせいぜい国家レベルで議論されるのに対し、都市に対する影響は今やほとんどグローバルに及んでいるからです。

2010年から2020年の間、経済的にも人口的にも発展したのは、少なくとも10万人以上の人口を持ち、ロンドン、アムステルダム、フランクフルト、ミラノを結ぶ中央経済圏に位置し、第三次産業が主要な価値創出要素であった都市でした。中央経済圏外の都市も成長を遂げましたが、その成長は短期間で終わる傾向がありました。

これらの都市の発展から導き出される戦略的課題は次の通りです。

1. 都市同士が価値創出の特色を持って連携することが非常に重要である。周辺



プラハの歴史地区。継続的な都市開発の結果として歴史的建築物（写真手前）を補完するように計画建設された現代的な建築群（写真上部の背後）が共存している。プラハ、チェコ共和国

「ヨーロッパの都市」のイメージ  
「ダイナミックな時代における都市構造の安定性と変化の要素」  
「これからのグローバル化を考える」



プラハの歴史的な住宅街。プラハ、チェコ共和国



プラハに古くから残る商店街。プラハ、チェコ共和国

部に位置する都市でも、十分な規模を持つか、独自の役割を見つけることで成功することが可能となる。

2. 各都市の地域連携が重要である。特に中小企業が強い地域や、地域経済と強く結びついた都市は、長期的な成長が可能となる。
3. 都市は成長と安定の両方において人口増に依存している。国内外からの人口増が今後も重要性を増すため、都市の開放性は重要な要件となる。

たとえば、この安定化のために必要な枠組み

が、多くの場合国家レベルで規定されていたとしても、それぞれの都市が作成する地域戦略はこれを実現するための強力な手段です。したがって、地域レベルでは以下の点が重要です。

1. 自分の都市が経済や地理的な上位システムの中でどの位置にあるかを理解する。自分の都市はグローバルな中でどの役割を果たしているのか？都市のニッチは何であり、それをどのように可視化できるのか？
2. 地域の連携やパートナー都市、隣接都市とのつながりを探ることによって、共通の利益と独自の特徴を定義する。自分の都市は地域的・国家的に何の一部であり、その中で自分の都市の特異な特徴は何か？
3. 自らの受け入れ文化と戦略を再評価する。成長は必ずしも海外からの移住によるものではない。観光や特別な「限定」商品を地域外に発信し、外部から人を引き込むことが成長につながる場合もある。自分の都市はどのようにして認知されるのか？その認知をどのように活用できるのか？

成功するイメージには、戦略的な発展の課題と、都市固有の空間的、物理的、機能的、あるいは人口的な特徴との調和が重要です。自らの形態や歴史を犠牲にしてまで都市を完全に改造し、可視化することは、たいていの場合成功しません。このため、ヨーロッパの都市では長い間、急速に変化する条件に対し



新ライプツィヒ憲章（表紙）

て、都市の形態や機能をどう変えるべきか、あるいは変えないべきかという議論が続いています。この議論は産業革命が始まった19世紀から続いています。

ヨーロッパにおいて国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）に加えて、2つの重要なマイルストーンがあります。1つ目は1993年のアテネ憲章で、これは近代の都市が後期産業化に進むきっかけとなりました。2つ目は2007年に最初に採択され、2020年に「新ライプツィヒ憲章」として更新されたライプツィヒ憲章です。これは、特にドイツ、オーストリア、スイスのドイツ語圏とその周辺国で重要な役割を果たしています。憲章は「良い」都市政策の戦略原則をまとめ、ヨーロッパの都市における不変の特性に対する一般的な提言と、今後の発展のために必要な戦略的ステップを定義しています。

安定した指針の1つには、歴史的な都市構造を尊重し、保護し、発展させる、コンパクトで機能が混在する空間的配置があります。都市の発展のダイナミズムは、むしろ都市の管理によって対応されるべきです。たとえば、新技術を活用してエネルギー消費や環境負荷を減らし、都市構造の開放性と利用可能性を確保し、生産性を向上させることが求められます。このようにして、伝統的な都市構造を未来に向けて適応させていくのです。

「新ライプツィヒ憲章」には、地域協力や地域に基づく計画である「まちづくり」、市民参

加、企業の責任と市民の積極的な関与の強化などのテーマが含まれています。憲章は、都市の「公正で、緑豊かで、生産的な未来」を目指しています。

この憲章の重要性は、個々の提言自体というよりも、「自分の都市の発展における恒常的な要素とは何か?」「動的かつ戦略的な課題とは何か?」という疑問を提示する点にあります。憲章の策定過程では、ヨーロッパの都市が何を意味するのかについて各都市の間で社会的な議論が生まれました。憲章は一方で都市構造の長期的な要素を保護し、他方ではあらゆる施策の変革や積極的な活動を促し、「ヨーロッパの都市」の伝統に基づいたイメージの方向性を示しています。「ヨーロッパの都市」の特徴が日本の都市にそのまま適応できるわけではありませんが、これからの日本の都市を考えるにあたって類似の憲章をもとに日本の都市とは何か、そしてその保全と発展はどうあるべきかの議論を行うことは有益であるかもしれません。

「ヨーロッパの都市」のイメージ  
↓  
ダイナミックな時代における都市構造の安定性と変化の要素  
↓  
これからのグローバル化を考える

#### 著者略歴

#### ヤン・ポリーフカ

1977年チェコ共和国ブラハ生まれ。空間計画学博士。ベルリン工科大学都市・地域計画インスティテュート卒業。ドルトムント工科大学空間計画学部、アーヘン工科大学建築学部を経て現在ベルリン工科大学都市・地域計画インスティテュートの都市計画学および建築環境開発学教授。

並行して民間の都市計画事務所にて都市再生分野のコンサルタントとして従事。

専門は住宅と商業施設に重点を置いた都市再生と都市計画、空地地再開発、気候変動とエネルギー転換への順応を目的とした既存建築物のリノベーション。